



自然遊学館 だより

2016 AUTUMN

No.81



ジャノメガザミ (ワタリガニ科)

2016年8月5日、貝塚科学の日のイベントとして二色の浜で行った地曳網で捕れました。甲羅にある3つの目玉模様(蛇の目)が特徴です。

2016. 11. 30 発行 貝塚市立自然遊学館

目 次

*ネイチャーレポート

近木川でのスミウキゴリの採取報告

～汽水域の魚採りを楽しむ～ ……河田航路…1

近木川、男里川における

ミナミテナガエビの記録…山田浩二・河添純子…2

*行事レポート

二色の浜アマモ場観察 ……山田浩二… 3

近木川河口の生きものと遊ぼう！ ……山田浩二… 5

自然生態園バッタ調べ ……岩崎拓… 7

近木川のアユを調べよう ……山田浩二… 8

夏休み自由研究相談 …… 9

*泉州生きもの情報

二色の浜突堤でイワガニを採集……山田浩二… 9

阪南市波有手海岸で採集された

ムラクモキジビキガイ……山田浩二… 10

*館長コーナー

スナメリ……高橋寛幸… 10

*生きものがかり

遊学館で飼育している生きもの8 ……鈴子勝也… 14

*調査速報

二色浜周辺の鳥調査1 ……鈴子勝也… 15

二色浜周辺の鳥調査2 ……鈴子勝也… 16

千石荘昆虫調査 2015 ……岩崎拓… 16

*寄贈標本 …… 19

*スタッフ日誌 …… 25



ネイチャーレポート

近木川でのスミウキゴリの採取報告 ～汽水域の魚探りを楽しむ～

近木川が二色の浜公園の海に流れ込む河口は、海水と川の水（淡水）が混ざり合う汽水域と呼ばれる場所で、海にすむ生物と川にすむ生物が同じ場所で採取できる「タモ網での雑魚採り大好き人間で且汽水域の魚並びにエビ類に興味を持つ者」である私にとって大変魅力のある水域であります。現在、認定NPO法人シニア自然大学 研究部水生生物科に所属し、基本的に週1回の頻度で琵琶湖・淀川水系を中心とした大阪府や兵庫県、京都府、滋賀県で水生生物定例調査を行っています。

2016年10月2日、11月6日の2度にわたり、近木川下流の「新井井堰」を自主調査しました。調査結果を貝塚市立自然遊学館へ報告したところ、近木川で初採取・確認とされたスミウキゴリ（図1）の他、近木川での採取記録があまり無いヒナハゼ、ヌマチチブ（図3）が含まれていることが判明しました（表1）。

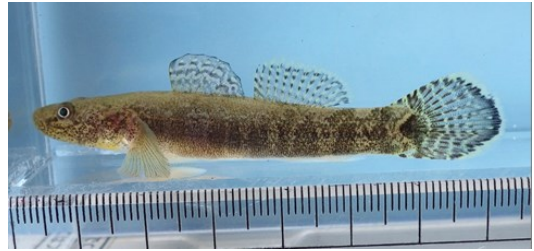


図1. スミウキゴリ
近木川下流 2016年11月6日採集



図2. ウキゴリ
男里川下流 2012年3月30日採集

スミウキゴリは同属のウキゴリ（図2）に似ますが、第1背鰭の後縁に黒色斑が無いことで区別することが出来ます。河川の汽水域から中流域に生息し、ウキゴリと混生する河川では、本種の生息域は下流側に偏る傾向がみられます。今回、採集された2個体のスミウキゴリは標本として、自然遊学館へ寄贈しました。



図3. ヌマチチブ
近木川下流 2016年11月6日採集

表1. 近木川下流「新井井堰」で採取した魚類等リスト

科	属	標準和名	2016年	
			10月2日	11月6日
ウナギ科	ウナギ属	ニホンウナギ	○	○
コイ科	タモロコ属	タモロコ		○
カワアナゴ科	カワアナゴ属	カワアナゴ	○	○
カダヤシ科	カダヤシ属	カダヤシ		○
メダカ科	メダカ属	ミナミメダカ	○	○
シマイサキ科	シマイサキ属	シマイサキ	○	
ハゼ科	ヨシノボリ属	ゴクラクハゼ	○	○
	チチブ属	ヌマチチブ	○	○
	マハゼ属	マハゼ	○	○
	ウキゴリ属	ウキゴリ	○	
		スミウキゴリ		○
	ミズハゼ属	ミズハゼ		○
	ヒナハゼ属	ヒナハゼ	○	
ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	ミナミヌマエビ	○	
テナガエビ科	テナガエビ属	テナガエビ	○	○

また、ヌマチチブは調査の両日ともに採取・確認できました。「チチブ」に似ます

が、頭部側面の白点がまばらであることや、胸鰭基部に黄色の横帯があり、その中に明瞭に分枝した橙色線があることなどで区別できます。

魚類等の生息調査は、季節、水量の変化に対応して、「採取種数」「採取量」が常に変化をしており、全体像を把握するためには今後も季節を変え複数回の調査を継続する必要があると考えております。

参考文献

川那部浩哉・水野信彦 編（2001）日本の淡水魚，719pp.，山と溪谷社。

（川西市 河田 航路）

近木川、男里川における ミナミテナガエビの記録

近木川下流で2016年9月24日に行った「近木川のアユを調べよう！」観察会において、テナガエビ科テナガエビ属ではテナガエビ *Macrobrachium nipponense*、ミナミテナガエビ *M. formosense*（図1）、ヒラテナガエビ *M. japonicum* の3種が採集されました。この中でミナミテナガエビは貝塚市内では初記録になると思われます。ミナミテナガエビは和名のとおり、テナガエビより南方系の黒潮流域に分布する種で（鈴木・佐藤、1994）、太平洋側では千葉県が分布の東限となっています。和歌山県などでは多く確認されていますが（原田、2004）、黒潮の流入の少ない瀬戸内海ではあまり記録がありません（土井ほか、2009）。



図1. ミナミテナガエビ
近木川下流、2016年9月24日採集

テナガエビは近木川の下流ではよく見られる普通種で（山田・岩崎、2009 など）、観察会時も採集されたテナガエビ科のほとんどはテナガエビでしたが、そのなかでミナミテナガエビのメス（抱卵個体）が1個体混じっていました。頭胸甲側面に3本の横縞があり、第三歩脚の爪の長さが短い等の点で、テナガエビと区別できました。この採集個体は登録標本（KCMN-Cr488）として保管しました。

また、ヒラテナガエビは今回2個体採集されたのですが、分布域はミナミテナガエビと国内ではほぼ同様です。これまで貝塚市内では人工島にある中部水みらいセンターの冬場もあり水温低下がない人工的な水路で採集されたことはあるものの（山田、2013）、近木川で記録されたのは今回が初めてとなりました。これらの採集個体は登録標本（KCMN-Cr487）として保管しました。

一方、男里川下流においても2016年7月29日に菟砥橋付近で、大阪府立泉鳥取高校フィールドワーク部が行った水生生物調査時にミナミテナガエビが採集されました（図2）。男里川においてもミナミテナガエビの記録は今回が初めてになると思います。また、ここでも同時にヒラテナ

ナガエビが採集されました。男里川でのヒラテナガエビの生息は最近の観察会等ではしばしば確認されていますが、文献としての記録（石田ほか、2014）は少ないようです。



図 2. ミナミテナガエビ
男里川下流、2016 年 7 月 29 日採集

引用文献

- 石田惣・山田浩二・山西良平・和田太一・渡部哲也（2014）大阪府の汽水域・砂浜域の無脊椎動物および藻類相. 自然史研究, 3 (15) : 237-271.
- 鈴木廣志・佐藤正典（1994）かごしま自然ガイドー淡水産のエビとカニ. 144pp., 西日本新聞社.
- 土井敏男・中務裕子・國居彩子（2009）兵庫県加古川市で採集されたヒラテテナガエビとミナミテナガエビ（テナガエビ科）の記録. 南紀生物, 51 (2) : 146-149.
- 原田英司（2004）紀伊半島西・南部（和歌山県）の河川の下・中流域で採集されたテナガエビ類. 南紀生物, 46 (1) : 1-6.
- 山田浩二・岩崎 拓（2009）近木川の水生生物（2007 年度調査）. 貝塚の自然 第 11 号 : 88-92.
- 山田浩二（2013）泉州生きもの情報 ヒラテテナガエビ. 自然遊学館だより, No. 68:16-17.

（山田 浩二・河添 純子(泉鳥取高校教諭)）

行事レポート

二色の浜 アマモ場観察

日時：2016 年 7 月 3 日（日）12:00～15:00

場所：二色の浜北端

参加者：45 人（内スタッフ 14 人）

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

昨年から始めた二色の浜でのアマモ場観察会を今年も行いました。観察会の前日、スタッフで下見を兼ねたアマモの生育調査を行いました。この時はとても海の透視度が悪く、50 cm先が見えない程に濁っていましたので、どうなることかと心配されましたが、1日で海の濁りは大きく改善され、当日はシュノーケリング観察するのに困りませんでした。

初めてシュノーケリングを体験される方も多かったので、はじめはシュノーケルをつけての呼吸の練習からはじめ、徐々に海に入っていました（図1）。家族ごとにスタッフが付き、一緒にアマモの生えている様子を観察し、見つけた生きものの採集を行いました。



図 1. 二色の浜でシュノーケリング

アマモ場を住みかとする小さなヒメイカ（図 2）や、砂地ではサンショウウニなどが見つかりました。アマモの生えるすぐ横の離岸堤周辺も生物探しには格好の場所で、角（額角）のとても長いアシナガスジエビや、腕の長いクモヒトデの仲間など多くの生物が採集されました。この時に採集した生物のリストを表 1 に示します。



図 2. ヒメイカ

休憩をはさんでからは、ミニ地曳網を行いました（図 3）。岸近くの浅場には特に大量のアナアオサが浮遊しており、網を引き上げるときは網が破けるのではないかと、いうくらいの重さでした。みんなで網に入ったアナアオサを掻き分けて、獲れた生きものを採した結果、ヘダイやドロメなど 13 種類の魚のほか、エビやカニ、貝が見つかりました（図 4）。2 回の網入れで捕れた生きもののリストを表 2 に示します。



図 3. 二色の浜で地曳網



図 4. アナアオサの中から生きものを探す

最後にこの日採集された様々な生きものを前にして、種名等の解説を聞いて終了となりました。

表 1. 二色の浜のアマモ場で観察した海岸動物 2016年7月3日

グループ		和 名
軟体動物	腹足綱	タマキビガイ科
		モロハタマキビ
		カリバガサ科
		シマメノウフネガイ
		タマガイ科
環形動物		ツメタガイの卵のう
		アッキガイ科
		アカニシ
		メリバウミウシ科
		メリバウミウシ属
二枚貝綱	フネガイ科	カリガネエガイ
	頭足綱	ヒメイカ科
		ヒメイカ
	多毛綱	タマシゴカイ科
		タマシゴカイ科の卵のう
節足動物	ウミグモ綱	イソウミグモ科
		イソミミズ
	軟甲綱	シマウミグモ
		テナガエビ科
		アシナガスジエビ
外肛動物		ヤドカリ科
		コブヨコバサミ
		ユビナガホンヤドカリ
		ケアシホンヤドカリ
		ヤワラガニ科
棘皮動物		トウヨウヤワラガニ属
		ベンケイガニ科
		ヒメベンケイガニ
	裸喉綱	フクロコケムシ科
		ホンダワラコケムシ
ヒトデ綱		イトマキヒトデ科
		デビイトマキヒトデ
		マヒトデ科
		マヒトデ
		モミジガイ科
ウニ綱		モミジガイ属
		トゲクモヒトデ科
		ナガトゲクモヒトデ
		クモヒトデ科
		ニホンクモヒトデ
ナマコ綱		サンショウウニ科
		サンショウウニ
		ナガウニ科
		ムラサキウニ
		ホンブンプク科
オカメブンプク		オカメブンプク
		マナマコ
メバル科	硬骨魚綱	メバル科
		メバル属
		カジカ科
		サラサカジカ
		ハゼ科
カワハギ科		ドロメ
		カワハギ
		ウマツラハギ
		フグ科
		ヒガンフグ
クサフグ		クサフグ

表2. 二色の浜地曳網（網入れ2回）2016年7月3日

	グループ	和名	個体数
魚類	フサカサゴ科	メバル類	4
	カジカ科	サラサカジカ	8
		アサヒアナハゼ	2
	スズキ科	スズキ	2
	タイ科	ヘダイ	26
		クロダイ	1
	ウミタナゴ科	ウミタナゴ属	8
	メジナ科	メジナ	2
	ベラ科	キュウセン	1
	ハゼ科	ドロメ	9
		ヒメハゼ	3
		スジハゼ	3
	フグ科	ヒガンフグ	2
甲殻類	テナガエビ科	ユビナガスジエビ	3
		スジエビモドキ	5
		アシナガスジエビ	4
	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	5
	ガザミ科	イシガニ	7
		チチュウカイミドリガニ	1
	モクズガニ科	イソガニ	1
		ケフサイソガニ	3
貝類	ニシキウスガイ科	コンダカガンガラ	2
	アッキガイ科	アカニシ	2
	マルスダレガイ科	アサリ	4

(山田 浩二)



図1. カニ釣りの説明

カニ釣りの釣果は、ハマガニ 78 個体、アシハラガニ 58 個体、クロベンケイガニ 45 個体の計 3 種、181 個体でした。昨年、一昨年と 200 の大台を超えていたのに比べると、若干少なめという感じでした。各種の雌雄ごとに釣れた大物を表 1 に記します。

表1. カニ釣り大物ベスト3 近木川河口2016年9月3日

クロベンケイガニ		
合計 45個体（平均甲幅24.4mm）		
	甲幅(mm)	採集者
♂1位	35.6	ふじわら ゆうき
2位	34.7	うのせ ちえ
3位	33.4	おがわ あやか
♀1位	31.9	おがわ あやか
2位	29.2	みやはら はる
3位	28.6	みやはら はる

ハマガニ		
合計 78個体（平均甲幅39.4mm）		
	甲幅(mm)	採集者
♂1位	53.2	しらが ゆめ
2位	52.2	ふじわら ゆうき
3位	51.9	しらが ゆめ
♀1位	47.6	ふじわら ゆうき
2位	46.0	しらが ゆめ
3位	44.6	かわうえ あり

アシハラガニ		
合計 58個体（平均甲幅24.6mm）		
	甲幅(mm)	採集者
♂1位	30.5	みくも そうすけ
2位	29.4	しらが ゆめ
2位	29.4	しらが ゆめ
♀1位	30.0	つつみ いつた
1位	30.0	しらが ゆめ
2位	29.8	しらが ゆめ

近木川河口の生きものと遊ぼう！

日時：2016年9月3日（土）10：00～15：30

場所：近木川河口

参加者：69 人（内スタッフ 13 人）

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

協力：大阪湾環境保全協議会

午前中は河口のヨシ原に生息するカニを釣り上げる「カニ釣り」を行いました(図1)。今年もエサはタクワンを使い、45 分間の釣りを楽しみました。釣り上げたカニは家族ごとに計測所に持参頂き、スタッフがカニの各個体について、種類、雌雄を記録し、ノギスで甲幅を計測しました。これらの記録を集計している間、講師の大畠麻里さんよりハクセンシオマネキの行動についての解説を受けました。

午後からは海辺に移動して、お弁当を食べた後、前浜の干潟で生きもの探しを行いました。貝に詳しい児嶋格さんに講師として加わって頂き、礫の下を探したり、泥をスコップで掘ったりして貝やカニなどを採集しました。また、浅場ではタモ網を振るって魚やエビなどを捕まえたりもしました。貝では春に近木川河口で急増を確認した巻き貝のウミニナがサイズも大きくなり健在だったのと、二枚貝のハザクラ、ソトオリガイといったここでは珍しい種が見つかりました。

自由採集を1時間ほど行った後、波打ち際に集合し、みんなで力を合わせて地曳網を行いました。あまり魚が入ってくれませんでした。ウミタナゴやスズキなど7種の魚類が捕れました(表3)。なかでもかっこいい姿をしたコンゴウフグが捕れたのには、みんな大喜びでした(図2)。



図2. 地曳網で捕れたコンゴウフグ

最後に階段状護岸の下で、前浜の干潟で採集した生きものについて、種名や特徴などの説明を聞きました(図3)。表2に地曳網で捕れた生きものを含む前浜で観察できた生物のリストを、表3に地曳網だけで捕れた魚の種、個体数を挙げました。

表2. 近木川河口(前浜)で観察した海岸動物 2016年9月3日

グループ		和名
刺胞動物門	花虫綱	タテジマイソギンチャク科
軟体動物門	多板綱	タテジマイソギンチャク
		ヒザラガイ
	腹足綱	ケハダヒザラガイ科
		ヒメケハダヒザラガイ
		ヨメガカサガイ科
		マツバガイ
		ヨメガカサ
		ウノアシ
		シボリガイ
		コシダカガンガラ
		イシダタミ
		スガイ
		アマオブネガイ科
		イシマキガイ
		ウミニナ
		マルウズラタマキビ
		アラレタマキビ
		タマキビ
		タマガイ科
		ツメタガイの卵のう
		アツキガイ科
		イボニシ
		オリイヨフバイ科
		アラムシロ
		カラマツガイ科
		キクノハナガイ
		二枚貝綱
		イガイ科
		ホトギスガイ
		クログチ
		コウロエンカワヒバリガイ
		カリガネエガイ
		イタボガイ科
		マガキ
		ケガキ
		クチバガイ
		チドリマスオ科
		ハザクラ
		シオサザナミ科
		アサリ
		マルスダレガイ科
		セミアサリ
		イワホリガイ科
		ソトオリガイ
		オキナガイ科
		イワムシ
環形動物門	多毛綱	イソメ科
節足動物門	軟甲綱	ハマトビムシ科
		ヒメハマトビムシ
		クルマエビ科
		ヨシエビ
		テナガエビ科
		スジエビモドキ
		アナジャコ科
		ヨコヤアナジャコ
		ホンヤドカリ科
		ユビナガホンヤドカリ
		ガザミ科
		タイワンガザミ
		モクスガニ科
		ケフサイソガニ
		タカノケフサイソガニ
		ヒライソガニ
		コメツキガニ科
		コメツキガニ
		オサガニ科
		オサガニ
棘皮動物門	ナマコ綱	イカリナマコ科
脊索動物門	硬骨魚綱	スズキ科
		スズキ
		タイ科
		マダイ
		ウミタナゴ科
		ウミタナゴ
		シマイサキ科
		シマイサキ
		ハゼ科
		ミズハゼ属
		ヒメハゼ
		チチブ
		ギマ科
		ギマ
		カワハギ科
		アミメハギ
		ハコフグ科
		コンゴウフグ
		フグ科
		クサフグ

表3. 近木川河口地曳網(網入れ2回) 2016年9月3日

目	科	和名	個体数
魚類	スズキ目	スズキ科	5
		タイ科	1
		ウミタナゴ科	25
フグ目	ギマ科	ギマ	1
		カワハギ科	2
		アミメハギ	2
		ハコフグ科	2
		フグ科	3



図 3. 採集した生きものの解説

(山田 浩二)

自然生態園バッタ調べ 2016

日時: 2016 年 9 月 10 日 (土) 11:00~12:00

場所: 自然生態園「バッタの原っぱ」

参加者: 10 人

今年も、市民の森公園（貝塚市二色）の自然生態園「バッタの原っぱ」において、森康貴先生を講師に迎えて、自然遊学館わくわくクラブのメンバーと一般参加者でバッタ調べを行いました（図 1）。



図 1. バッタ調べの様子

10 人で 20 分間、採集した結果を表 1 に示しました。1 匹ごとに透明プラスチックカップに入れ、森先生が仕分けていきます。結局、9 種 53 個体のバッタ・コオロギ・キリギリスの仲間が採集されました。

今年の優占種（＝個体数が最多の種）はホシササキリでした（表 2）。マダラバッタやエンマコオロギも大差はありません。この 3 種だけが、調査を始めた 2006 年以降、毎年確認されていて、11 年間の合計個体数でも、これまでに確認された 20 種のうちで、差のないベスト 3 を占めています。

表 1. 自然生態園バッタの原っぱで採集されたバッタ目昆虫

2016 年 9 月 10 日 11:00~12:00 10 人

同定: 森 康貴

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	ホシササキリ	9	4
	クビキリギス		2
コオロギ科	エンマコオロギ	11	
	ハラオカメコオロギ	2	
ヒバリモドキ科	シバズ		4
	マダラスズ		1
オンブバッタ科	オンブバッタ	1	
バッタ科	ショウリョウバッタ	7	
	マダラバッタ	5	7

ほか、チョウセンカマキリ(1♂2♀1幼虫)を採集

表 2. バッタの原っぱで採集されたバッタ目の種数、個体数、および優占種

年	種数	個体数	優占種
2006	11	50	クビキリギス
2007	12	58	クビキリギス
2008	15	66	ハラオカメコオロギ
2009	8	61	マダラバッタ
2010	8	68	エンマコオロギ
2011	11	70	ホシササキリ
2012	11	73	マダラバッタ
2013	8	29	オンブバッタ
2014	10	61	ホシササキリ
2015	9	70	エンマコオロギ
2016	9	53	ホシササキリ

森先生から、それぞれの種の説明を聞いた後、採集したバッタやカマキリを逃がして、行事を終えました。

今年は7月の下旬から8月の中旬まではほとんど雨が降らず、バッタの原っぱの草が枯れ、バッタ調べ行事の開催が危ぶまれたのですが、彼らがたくましく夏を越したことが分かりました。

(岩崎 拓)

近木川のアユを調べよう！

日時：2016年9月24日(土) 10:00～12:00

場所：近木川下流

参加者：27人(内スタッフ6人)

今年の9月は雨天の日が多く、この日も普段より水かさが増しているなかでの開催でした。アユ調べ観察会も2012年から始めて、今回で5回目を迎えました。昨年は初夏の頃に、アユの群れが泳いでいる姿を目撃するも9月の観察会では見られなかったのですが、今年も同じようなパターンで当日はアユが見られない結果となりました。例年、講師の河野通浩さんが当日の朝に男里川でアユを採集し、見本として持ってきていただいております、この日も同様に採集に行かれたのですが男里川でも捕れなかったそうです。

アユは観察できなかったものの、参加者のみなさんが一所懸命にタモ網をふるい(図1)、刺し網を行った結果、近木川下流には多くの魚やエビ、カニなどが生息していることが確認されました(図2)。ただ、

外来種のカダヤシ、ブルーギル(図3)の個体数が昨年に比べ、増加した印象がありました。表1に確認された動物のリストを記します。



図1. タモ網で生きものを探す



図2. 採集した魚の解説



図3. 多く採集されたブルーギル

表1. 近木川河口(新井井堰)で観察した動物 2016年9月24日

グループ		和 名
軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ科
節足動物門	軟甲綱	イシマキガイ
		ミソレヌマエビ
		スマエビ科
		ミナミヌマエビ
		テナガエビ科
		テナガエビ
		ヒラテテナガエビ
		ミナミテナガエビ
		スジエビ
		モクズガニ科
		モクズガニ
		ベンケイガニ科
		クロベンケイガニ
昆虫綱	イトトンボ科	アオモンイトトンボの幼虫
		サナエトンボ科
		ダビドサナエの幼虫
脊索動物門	硬骨魚綱	ウナギ科
		ウナギ
		コイ科
		オイカワ
		モツゴ
		タモロコ
		カダヤシ科
		カダヤシ
		メダカ科
		ミナミメダカ
		サンフィッシュ科
		ブルーギル
		シマイサキ科
		シマイサキ
		カワアナゴ科
		カワアナゴ
		ハゼ科
		ウキゴリ
		マハゼ
		ヒナハゼ
		アベハゼ
		ゴクラクハゼ
		チチブ
爬虫綱	ヌマガメ科	ミシシippiaアカミミガメ

(山田 浩二)

夏休み自由研究相談

日時:2016年7月17日(日)~8月31日(水)

自然遊学館では夏休み期間中、自由研究の相談を受け付けました。

- ・ 土壌生物調べ 和泉市・小5
- ・ 外来生物 貝塚市・小4
- ・ 12本腕のマダコ 貝塚市・小6
- ・ 近木川の植物 貝塚市・小6
- ・ アマゴの生態 貝塚市・中2
- ・ 紀南のタカラガイ 貝塚市・小2
- ・ 植物標本の名前調べ 貝塚市・小5
- ・ 二色の浜の貝殻で作った写真立て 貝塚市・小2
- ・ 二色運河の魚 貝塚市・小3

(山田 浩二)

泉州生きもの情報

二色の浜突堤でイワガニを採集

貝塚市の海岸ではこれまで 50 種類ほどのカニが確認されていますが、昨年の 2015 年 6 月 28 日に二色の浜の突堤でイワガニ *Pachygrapsus crassipes* (イワガニ科) が新たに記録されました。本種は主に外洋の影響のある岩礁域に生息しています。

採集個体はオスの 1 個体で、大きさは甲幅 38.2 mm、甲長 32.6 mm でした。体にはタテジマフジツボ、ヨーロッパフジツボの複数の付着が見られ、腹部はフクロムシ類に寄生されていました(図 1、2)。この採集個体は登録標本(KCMN-Cr479)として保管しました。



図 1. イワガニ



図 2. イワガニ (腹面)

阪南市波有手海岸で採集された ムラクモキジビキガイ

阪南市鳥取にある波有手海岸^{ぼうで}という呼び名は、かつてあった波有手村という旧地名からつけられています。潮通しのよい砂浜には府下最大規模のアマモ場がひろがっています。

2016年5月20日、大阪湾生き物一斉調査の一環で、NPO 法人環境教育技術振興会とプロロジスが担当団体となり、この海岸の生物調査が行われました。多くの生きものが見つかったなかで、大阪湾でも珍しいムラクモキジビキガイ *Japanacteon nipponensis* (頭楯目オオシイノミガイ科) を紹介します(図1)。有殻の後鰓類(ウミウシ類などを含むグループ)で、軟体部は黒色、殻の上部には火炎彩模様、殻表には螺溝^{らこう}と呼ばれる細かい溝があります。この螺溝を挽き物(木地をろくろで挽いて作った細工物)の木地に残ったろくろ跡に見立て、「木地挽き」の和名がついたそうです。

採集した個体を容器に入れておいたところ、2週間後にコイル状に巻いた卵塊を産みました(図2)。この採集個体は登録標本(KCMN-Mo419)として保管しました。



図1. ムラクモキジビキガイ

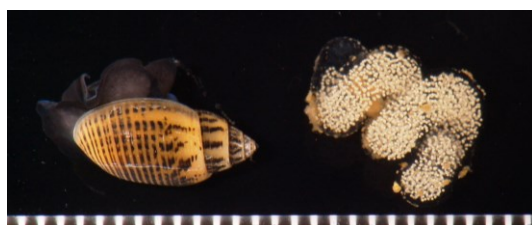


図2. 産卵した卵塊(右) 目盛はミリ

(山田 浩二)

館長コーナー

スナメリ

スナメリのことを少しお知らせします。

ストランディング(海生哺乳類が漂着したもの) 報告

貝塚市二色浜海浜緑地の水辺にスナメリの死体が打ち上げられたのが2016年(平成28年)1月でした。

二色の浜には平成19年、26年、28年にスナメリが死体となって打ち上げられた記録があります。

今回、2016年(平成28年)1月に打ち上げられたスナメリの死体は外傷も少なく状態がきれいでした。

そこで、スナメリの処理等について幾つかの専門機関に相談しました。しかし、なかなか結論が出ず、行き先も決まらない状態でした。冬とはいえ時間が過ぎれば死体も腐敗します。何とかできないか悩みました。

今回漂着したスナメリは体長約165cm、雌雄別、年齢は共に不明でした。そして、スナメリはエサとなるイワシの大群を追いかけて湾内に迷い込み死亡したのでは

ないか、と考えられました。

実際、死体漂着の数日前にはイワシの大群が同海岸にあらわれていたからです。

スナメリとは？

スナメリはネズミイルカ科で小さなクジラとも紹介される生きものです。

しかし、イルカと違い背びれがありません。ですから、海で泳ぐ姿は非常に発見しにくい生きものです。

時々テレビの情報番組の中でスナメリを船から観察するという特番がありますが、その時には見つかることはなく、見つかった時の過去の記録映像が流れることが多いです。

「スナメリの泳ぐ姿を目撃した。」そんな情報は少ないのが現状のようです。

関西の大手水族館の代表として知られる『神戸市立須磨海浜水族園』や『海遊館』では、スナメリの情報提供を広く呼び掛けデータ収集に努めています。

スナメリ剥製を作ろう

現在、大阪府下の水族館・博物館にはスナメリのレプリカや骨格標本はあるが剥製は無いようです。

そんな中、二色浜海浜緑地海岸で打ち上げられた「スナメリの死体を剥製にできないか」、という話が出ました。しかし、先にも述べたように、なかなか思うような結果が出ませんでした。処分も目の前にちらついたころ、「当館でスナメリの剥製を作ろう」ということで話がまとまり、スナメリを剥製業者に冷凍保存してもらい、剥製製作をすることになりました。

「スナメリの剥製を当館に展示することはとても意義があり、剥製が展示されれば関西でも珍しい施設となることは間違いない。だから剥製を作ろう。」そんな思いが剥製製作の夢を現実に変えていったのです。

スナメリ剥製と骨格標本を展示したい

冷凍保存から剥製製作のための作業が始まり、肉と骨格の除去作業が始まろうとするころ骨格標本の話が起きました。

当館には、過去に死体で漂着したスナメリから作った骨格標本が存在し、展示されていました。しかし、冷凍保存されたスナメリの骨の除去が行われる、との連絡が業者から入ったとき、「剥製を作るときに取り除かれる骨格を剥製と一緒に展示できたら良いね」、という話が出、骨格標本（分離骨格標本）を合わせて作ることになりました。

剥製製作業者に剥製の他に分離骨格標本作製を依頼し、剥製と骨格標本作製が同時進行されることになりました。

剥製は、作製までに下処理の時間が長くなるため、先に分離骨格標本が作製されました。

分離骨格標本完成

死体漂着から8か月が過ぎ、最初に分離骨格標本が作製されました。以下の写真は分離骨格標本の進行状況報告の時に送られてきた画像の中の幾つかです。



スナメリ頭骨画像



スナメリ頸椎画像



スナメリ胸椎画像



スナメリ左右手羽画像



スナメリ頸骨から尾椎画像



スナメリ左右肋骨助軟骨画像



スナメリ骨格全体画像



上段のスナメリ分離骨格収納の様子

2016 年 9 月 29 日スナメリ分離骨格到着

以下のような厳重な梱包で当館にスナメリの分離骨格標本が届きました。

これらを組み立てて立体化することも考えましたが、きれいに整列され部位ごとの名前が入っている標本を見て、考えが変わりました。『よし、このまま保管し、出前授業や移動展示に使おう』と。



スナメリ分離骨格上段の箱の中



スナメリ分離骨格が収納されている容器は 2 段式



スナメリ分離骨格下段の箱の中

スナメリ剥製

剥製の方は下処理に時間がかかることや、いくつかの修復作業が必要なことから完成はまだ先になりそうです。

剥製製作業者からは「1 月になると剥製

の型は整っており彩色作業を行う段階に入っている予定です。」との連絡がありました。私たちは、このころ剥製製作の進捗状況取材する予定を立てています。

次回遊学館だよりにはスナメリ剥製の記事が掲載できることと思います。

お楽しみに。

ご協力感謝いたします

尚、今回のスナメリの死体漂着から剥製製作に至るまでには、多くの皆様並びに関係機関にお世話になりました。

特に『海の学びミュージアムサポート』からは、助成金をいただきました。このことで、剥製と分離骨格標本作成に向け大きく一歩踏み出すことができました。

皆様、ありがとうございました。

今後の活動

当館では、12月～翌年2月までスナメリ学習会と海の学びまとめの報告会を予定しています。この号が発行される頃にはスナメリ学習会がすでに開催され、多くの方が、スナメリの不思議を学んでいることと思います。



(高橋 寛幸)

いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの8

今回紹介する生きものは、ヘビです。ヘビは、変温動物と言い、自分自身で体温を調整することができないのです。極端に温度を上げたり下げたりすると体調を崩す原因になります。飼育する際は、25度～30度を維持するようにしましょう。

遊学館では、2種類のヘビを飼育しています。アオダイショウ1匹とジムグリ1匹です。アオダイショウは、体長200cmほどになります。日本（沖縄を除く）中では、最大のヘビになっています。生息している場所は、平地から山地にかけて、森林や農地などに見られますが、時には地中や下水道に生息していることもあります。

アオダイショウの幼蛇をニホンマムシではないかと間違えてもってくる来館者がいます。飼育しているアオダイショウは、3年ほど前に治療をして、今は元気に生きています。エサは、冷凍したマウスをお湯などで温めて、アオダイショウの近くに置いてあげています。



遊学館で飼育しているアオダイショウ
(体長、約150cm)

次にジムグリの紹介です。全長 100cm ほどになります。体色は赤みがかった茶褐色で黒い斑点があります。生息している場所は、平地から低山地の森林、草原、水辺などで、地中の石下などにもぐることが名前の由来だそうです。朝方と夕方の気温の低い時間帯に活動をし、夏場になると活動が少なくなります。飼育しているジムグリには、アオダイショウのエサより小さいマウスを与えています。



遊学館で飼育しているジムグリ
(体長、約 70 cm)

(鈴子 勝也)

今回、2016 年 4 月～6 月までの近木川河口と二色の浜公園の鳥調査の結果を報告します。

近木川河口において2016年4月～6月に観察された鳥類

				2016年			
				観察月	4月	5月	6月
				観察日	9日	14日	4日
				観察開始時間	13:40	13:30	13:30
目	科	種	観察者	鈴子	鈴子	鈴子	
カモ目	カモ科	ヒドリガモ		○			
		カルガモ		○	○	○	
		コガモ		○			
		ホシハジロ		○			
カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ		○			
ハト目	ハト科	キジバト		○	○	○	
		ドバト		○	○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ		○	○	○	
ペリカン目	サギ科	アオサギ		○	○	○	
		ダイサギ		○	○	○	
		コサギ		○	○	○	
		コサギ		○	○	○	
ツル目	クイナ科	オオバン		○	○	○	
チドリ目	チドリ科	ケリ		○	○	○	
		ヨチドリ			○	○	
	シギ科	チュウシャクシギ			○		
		キアシシギ			○	○	
		ハマシギ		○	○		
	カモメ科	ウミネコ				○	
		セグロカモメ		○			
		コアジサシ			○	○	
	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス		○	○	○
			ハシブトガラス		○		○
ヒバリ科		ヒバリ				○	
		ツバメ科	ツバメ		○	○	○
ヒヨドリ科		ヒヨドリ		○	○	○	
		ウグイス科	ウグイス		○		
ムクドリ科		ムクドリ		○	○	○	
		ヒタキ科	ツグミ		○		
スズメ科		イソヒヨドリ		○	○		
		スズメ		○	○	○	
セキレイ科		ハクセキレイ		○	○	○	
		セグロセキレイ		○			
アトリ科		アトリ科	カワラヒワ		○	○	○
			アオジ		○		
種数				28	22	21	

二色の浜公園周辺において2016年4月～6月に観察された鳥類

			2016年			
			観察月	4月	5月	6月
			観察日	23日	28日	19日
			観察開始時間	13:30	13:30	13:30
			観察者	鈴子	鈴子	鈴子
目	科	種				
カモ目	カモ科	ヒドリガモ		○		
		ホシハジロ		○		
ハト目	ハト科	キジバト			○	○
		ドバト		○	○	○
カツオドリ目	ウ科	カワウ		○	○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ		○	○	○
		コサギ		○	○	○
チドリ目	シギ科	ハマシギ		○		
	カメ科	ウミネコ			○	
		コアジサシ			○	
スズメ目	タカ科	トビ		○		
	カラス科	ハシボソガラス		○	○	○
		ハシブトガラス			○	○
	ヒバリ科	ヒバリ		○		○
		ツバメ科	ツバメ		○	○
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○	○	○
	ムクドリ科	ムクドリ		○	○	○
		ヒタキ科	シロハラ		○	
	ツグミ			○		
	イソヒヨドリ		○			
	オオルリ		○			
	スズメ科	スズメ		○	○	○
	セキレイ科	ハクセキレイ		○	○	○
	アトリ科	カワラヒワ		○	○	○
			種数	20	15	14

調査速報

二色浜周辺の鳥調査 1

近木川河口の鳥調査は、元々、石毛久美子さんや食野俊男さんが記録をとっていたのですが、この4月から鈴子が担当することになりました。まだまだ、未熟者ですが精一杯頑張っていこうと思いますので、よろしくお願いします。

今年から、二色の浜公園周辺の鳥調査も進めようと思い、4月から開始しています。

調査結果

4 月はカモ科がいましたが、5 月と 6 月にはカルガモ以外は、北の国に飛んでいったと思います。

(鈴子 勝也)

二色浜周辺の鳥調査 2

近木川河口と二色の浜の鳥調査を 3 ヶ月ごとに報告します。今回は、2016 年 7 月～9 月の鳥調査結果報告をします。

近木川河口において2016年7月～9月に観察された鳥類

				2016年				
				観察月	7月	8月	9月	
				観察日	9日	11日	10日	
				観察開始時間	13:40	13:30	13:30	
目	科	種	観察者	鈴子	鈴子 坂本 岩岡	鈴子		
ハト目	ハト科	キジバト		○	○	○		
		ドバト		○	○	○		
カツオドリ目	ウ科	カワウ		○	○			
ペリカン目	サギ科	ゴイサギ			○	○		
		アオサギ		○	○	○		
		ダイサギ			○	○	○	
		コサギ		○	○	○		
ツル目	クイナ科	オオバン		○	○	○		
チドリ目	チドリ科	ケリ		○	○			
		コチドリ		○				
		シロチドリ		○				
	シギ科	イソシギ		○	○			
ハマシギ					○			
	カモメ科	ウミネコ		○	○	○		
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ		○		○		
スズメ目	モズ科	モズ		○				
	カラス科	ハシボソガラス		○	○	○		
		ハシブトガラス		○	○			
	シジュウカラ科	シジュウカラ		○		○		
	ヒバリ科	ヒバリ				○		
	ツバメ科	ツバメ		○	○	○		
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○	○			
	ムクドリ科	ムクドリ		○	○	○		
	ヒタキ科	インビヨドリ		○		○		
	スズメ科	スズメ		○	○	○		
	セキレイ科	ハクセキレイ		○	○	○		
		セグロセキレイ				○		
アトリ科	カワラヒワ		○	○	○			
種数				23	19	20		

二色の浜公園周辺において2016年7月～9月に観察された鳥類

				2016年			
				観察月	7月	8月	9月
				観察日	20日	17日	25日
				観察開始時間	13:30	13:40	13:30
観察者				鈴子	鈴子 道下 丹羽	鈴子	
目	科	種					
ハト目	ハト科	キジバト		○	○		
		ドバト		○	○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ		○			
ペリカン目	サギ科	アオサギ		○	○		
		ダイサギ		○	○		
		コサギ		○	○		
チドリ目	チドリ科	シロチドリ			○		
	シギ科	キアシシギ			○		
		イソシギ		○	○		
		カモメ科	ウミネコ		○	○	○
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ			○		
スズメ目	カラス科	ハシボソガラス		○	○	○	
		ハシブトガラス		○			
	シジュウカラ科	シジュウカラ			○		
	ヒバリ科	ヒバリ		○	○	○	
	ツバメ科	ツバメ		○	○		
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○	○	○	
	ムクドリ科	ムクドリ		○	○	○	
	ヒタキ科	インビヨドリ				○	
	スズメ科	スズメ		○	○	○	
	セキレイ科	ハクセキレイ		○	○	○	
				○	○		
	アトリ科	カワラヒワ					
種数				17	19	10	

調査結果

種類が少し減っているのは、冬鳥が旅立って行ったからです。この時期になるとムクドリが繁殖していて、家族でいるのをよく見かけることができます。8 月の観察者の欄には、同行した学芸員実習生の氏名を示しました。

(鈴子 勝也)

千石荘昆虫調査 2015

貝塚市千石荘において 2015 年 4 月から 12 月までの各月に 1 回ずつ 3 時間程度の昆虫調査（ルートセンサス・任意調査）を行いました。速報とは言えないほど遅れてしまいましたが、その結果、および 2005-06 年、2011-14 年の結果との比較を以下に記します。

1. 大阪府レッドリスト種

2015 年の調査では、『大阪府レッドリスト 2014』の指定種として、いずれも準絶滅危惧のベニイトトンボ、キイトトンボ、ヨツボシトンボ (図 1)、ナツノツヅレサセコオロギ、ウスアオリングア (図 2) が確認されました。

キイトトンボは毎年、ベニイトトンボもほぼ毎年確認されてきました。ヨツボシトンボも記録はありましたが、自身の調査では初めての確認となりました。

ナツノツヅレサセコオロギは鳴き声だけによる確認で、今年も採集できず、いまだに自然遊学館に標本はありません。ウスアオリングアは昨年までは標本がなかったのですが、2015 年は本調査のほかにも、6 月 8 日に千石荘ピクニックセンター跡地で採集されました。ウスアオリングアの餌植物は、「みんなでつくる日本産蛾類図鑑」というサイト (<http://www.jpmoth.org/>) からの情報によると、千石荘ではアキニレになります。



図 1. ヨツボシトンボ (み)
(トンボ目トンボ科、2015. 5. 6)



図 2. ウスアオリングア
(チョウ目コブガ科、2015. 12. 1)

アカトンボの仲間では、ナツアカネが 2005 年、ノシメトンボが 2012 年を最後に確認が途絶えていることが気掛かりです。

2. 注目種

今後も調査を続けて、千石荘の里山的環境の指標となるような種を選んでいきたいと考えています。

2015 年調査で確認された種は、マツムシ、カンタン、ショウリョウバッタモドキ (図 3)、サツマヒメカマキリ、カブトムシ (図 4)、ニホンミツバチです。

ショウリョウバッタモドキは 2005 年以来的の確認となりましたが、自分が見逃していただけて、特定の場所に生息し続けていたようです。ほぼ毎年確認されていたカブトムシでも、オス成虫が昼間から堂々と樹液を吸っている場面に出会ったのは久々でした。



図3. ショウリョウバッタモドキ
(バッタ目バッタ科、2015. 9. 1)



図4. カブトムシ
(コウチュウ目コガネムシ科、2015. 8. 4)

クルマバッタ、ヒラタクワガタ、ツマキ
チョウ、ニッポンヒゲナガハナバチなどは、
自身の調査では長期間確認が途絶えてい
ても、他からの情報で生息が確認されてい
ました。ただ、2013年まではクスノギの樹液
周りでよく見かけていたハチモドキハナ
アブが2014年と2015年に確認されなくな
ったことが心配です。

3. その他

これまで自然遊学館に標本がなく、今回
の調査で採集された種は、カスミカメ科の
不明種(図5)、コブノコギリゾウムシ、ト
ゲアリです。貝塚市産アリ科で56種目と
なったトゲアリの採集に関して悔いが残

ったことは前号で報告しました。イヌビワ
ハマキモドキとアカムシユスリカは標本
がなかったのですが、撮影後に逃げられて
しまいました。幼虫を採集したアケビコン
ボウハバチは、飼育に失敗して、標本が得
られませんでした。



図5. カスミカメムシ科の不明種
(カメムシ目カスミカメムシ科、2015. 12. 1)

カスミカメムシ科の不明種は、ロータリ
ー近くの高木のクスノギに多数がたかっ
ていて、クスノギの葉は遠くからでも色が
黄色っぽく変色しているのが分かりまし
た。林内や林縁のクスノギの幼木や若木の
一部では、被害を免れている木もありまし
た。

最後に、2015年調査の速報として紹介し
た種の確認日(月/日)を示しました。*印
は幼虫での確認、その他の無印は成虫での
確認です。

大阪府レッドリスト種

準絶滅危惧

ベニイトトンボ 7/2、8/4、9/1

キイトトンボ 6/4、7/2、8/4、9/1、10/6

ヨツボシトンボ 5/6、6/4

ナツノツヅレサセコオロギ 6/4、7/2

ウスアオリンガ 12/1

注目種

マツムシ 9/1、10/6

カンタン 10/6、11/4

ショウリョウバッタモドキ 9/1

サツマヒメカマキリ 9/1*

カブトムシ 8/4

ニホンミツバチ 5/6、9/1

自然遊学館に標本がなかった種

カスミカメムシ科不明種 12/1

コブノコギリゾウムシ 4/16、10/6

アカムシユスリカ 12/1

ウリウロコタマバエ虫こぶ 9/1、10/6

イヌビワハマキモドキ 5/6

アケビコンボウハバチ 5/6*

トゲアリ 8/4

追記

カスミカメムシ科の不明種は、安永ほか(2016)によって、中国大陸から関西地方に侵入した外来種 *Mansoniella cinnamomi* であることが確かめられました。

安永智秀・穆 怡然・長島聖大・山田量崇・高井幹夫(2016) 最近日本に侵入した外来カスミカメムシ: *Mansoniella cinnamomi*. *Rostralia*, No. 60:17-20.

(岩崎 拓)

寄贈標本

<菌類>

◆西出康介さんより

ツノマタタケが生えた材 1点

ミドリスギタケが生えた材 1点

貝塚市脇浜 2016年9月8日採集

オオシロカラカサタケ 2点

貝塚市二色 2016年9月10日採集

ホコリタケ属の一種 5点

貝塚市二色 2016年9月24日採集

ナカグロモリノカサ 3点

ミドリスギタケが生えた材 1点

貝塚市脇浜 2016年9月25日採集

<哺乳類>

◆佐々木敏夫さんより

コウベモグラ 死体1点

貝塚市蕎原 2016年7月6日採集

(同定: 西澤真樹子さん)

◆西阪秀雄さんより

コウベモグラ 死体1点

貝塚市三ツ松 2016年9月11日採集

◆執行心寧さんより

アブラコウモリ 死体1点

貝塚市二色 2016年9月11日採集

<爬虫類>

◆田淵雅彦さんより

クサガメ 生体1点

貝塚市二色の浜 2016年7月24日採集

<魚類>

◆福島秀人さんより

ホシササノハベラ 生体4点

キュウセン 生体1点

ムラソイ 生体 1 点
カサゴ 生体 3 点
泉佐野市りんくう往来北

2016 年 7 月 16 日採集

メバル 生体 5 点
キジハタ 生体 1 点
スズメダイ 生体 1 点
泉佐野市りんくう往来北

2016 年 7 月 23 日採集

ホシササノハベラ 生体 9 点
スズメダイ 生体 1 点
2016 年 7 月 30 日採集

◆三俣二生さんより
タツノオトシゴ 生体 1 点
貝塚人工島 2016 年 7 月 19 日採集

◆寺田拓真さんより
アケボノチョウチョウウオ 生体 1 点
オクヨウジ 生体 2 点
ナベカ 生体 6 点
イソギンポ 生体 1 点
貝塚市二色の浜 2016 年 8 月 4 日採集



アケボノチョウチョウウオ(幼魚)

◆鈴木麻由・岡留昌則さんより
ミミズハゼ属の一種 生体 5 点
貝塚市近木川河口 2016 年 8 月 31 日採集

<軟体動物>

- ◆濱谷巖さんより
オオベソフチマルマイマイ 殻 1 点
滋賀県伊吹山 1999 年 9 月採集
- ◆出原優美さんより
マダコ 標本 1 点 (8 腕中 4 腕が 2 又)
岬町 購入品 2014 年夏
- ◆渡辺久和さんより
ウスカワマイマイ 生体 1 点
千早赤阪村千早 2016 年 7 月 23 日採集
- ◆南海せとうちジオガーデンさんより
ボウシュウボラ 生体 3 点
アカニシ 生体 1 点
岬町多奈川小島沖
2016 年 7 月 27 日採集
- ◆大越孝太さんより
クチベニマイマイ 生体 1 点
貝塚市蕎原 2016 年 8 月上旬採集

<扁形動物>

- ◆濱谷巖さんより
ワタリコウガイビル 生体 1 点
岸和田市別所町 2016 年 7 月 30 日採集

<甲殻類>

- ◆南海せとうちジオガーデンさんより
イシダタミヤドカリ 生体 9 点
岬町多奈川小島沖
2016 年 7 月 27 日採集
- ◆田中あつしさんより
テナガエビ 生体 9 点
貝塚市近木川下流 2016 年 8 月 7 日採集
- ◆食野俊男さんより
タイワンガザミ 生体 1 点
貝塚市二色の浜 2016 年 8 月 7 日採集

- ◆西出康介さんより
テナガゴブシ 生体 1 点
泉州沖 2016 年 9 月 9 日譲渡品

<昆虫>

- ◆五藤武史さんより
ナガヒョウタンゴミムシ 成虫 1 点
堺市浜寺公園町 2016 年 4 月 11 日採集
(同定：澤田義弘さん)
ニワハンミョウ 成虫 1 点
貝塚市梶谷 2016 年 5 月 12 日採集
ナガヒョウタンゴミムシ 成虫 1 点
堺市浜寺公園町 2016 年 6 月 5 日採集
(同定：澤田義弘さん)
カトリヤンマ 成虫 1 点
ニイニイゼミ 成虫 3 点
貝塚市千石荘 2016 年 7 月 25 日採集
- ◆渡辺久和さんより
トビモンオオエダシャク 幼虫 1 点
和泉市池田下町 2016 年 7 月 21 日採集
- ◆西出康介さんより
ビロードスズメ 幼虫 6 点
貝塚市脇浜 2016 年 7 月 24 日採集
ビロードスズメ 幼虫 4 点
スズメガ科の一種 幼虫 1 点
貝塚市脇浜 2016 年 7 月 29 日採集
ハラビロカマキリ 幼虫 1 点
貝塚市脇浜 2016 年 8 月 8 日採集
- ◆大越孝太さんより
クルマバッタ 成虫 1 点
貝塚市蕎原 2016 年 8 月 22 日採集
- ◆自然遊学館わくわくクラブより
ヒメボタル 成虫 1 点
岸和田市河合町 2016 年 8 月 28 日採集
- ◆貝塚市浜手地区公民館より

- オオスカシバ 幼虫多数
貝塚市二色 2016 年 9 月 17 日採集

<クモ>

- ◆児嶋格さんより
ヤチグモ属の一種 成体 1 点
貝塚市近木川河口 2016 年 9 月 3 日採集

<展示用>

- ◆上田知史さんより
スズムシ 成虫多数
2016 年 7 月 24 日寄贈
- ◆森田紳平さんより
ノコギリクワガタ・ミヤマクワガタ・ヒ
ラタクワガタ・コクワガタ・カブトムシ
成虫多数
2016 年 7 月 25 日寄贈
- ◆大越孝太さんより
イボバッタ 成虫 1
オンブバッタ 成虫 2・幼虫 2
貝塚市蕎原 2016 年 8 月 22 日採集

<寄贈写真>

- ◆覚野良子さんより
イガホオズキ 1 枚
ササユリ 1 枚
ギンリョウソウ 1 枚
ミヤマハハソ 2 枚
タニタデ 1 枚
カツラギグミ 1 枚
ほか 20 枚
和泉葛城山 2016 年 7 月 2 日撮影



タニタデ

和泉葛城山 2016 年 7 月 2 日、覚野良子さん撮影



イヌザクラ

和泉葛城山 2016 年 7 月 18 日、覚野良子さん撮影



カツラギグミ

和泉葛城山 2016 年 7 月 2 日、覚野良子さん撮影

オオルリ 1 枚

イノシシ 1 枚

ほか 3 枚

和泉葛城山 2016 年 7 月 7 日撮影

ミヤマナミキ 1 枚

ヤマジオウ 1 枚

ホウライカズラ 2 枚

アオダイショウ 2 枚

ほか 4 枚

和泉葛城山 2016 年 7 月 23 日撮影



ホウライカズラ

和泉葛城山 2016 年 7 月 23 日、覚野良子さん撮影

カワセミ 3 枚

ダイミョウセセリ 1 枚

ほか 11 枚

貝塚市蕎原 2016 年 7 月 16 日撮影

オオキツネノカミソリ 1 枚

オオルリ 1 枚

ヒバカリ 1 枚

カジカガエル 1 枚

ヒメサナエ 1 枚 (同定: 中村進さん)

ほか 11 枚

和泉葛城山 2016 年 8 月 7 日撮影

イヌザクラ 1 枚

和泉葛城山 2016 年 7 月 18 日撮影



オオキツネノカミソリ

和泉葛城山 2016年8月7日、覚野良子さん撮影

イガホオズキ 3枚

ヒナノウスツボ 1枚

オオルリ 1枚

スミナガシ 2枚

シロスジベッコウハナアブ 2枚

ほか 18枚

和泉葛城山 2016年8月13日撮影



ヒナノウスツボ

和泉葛城山 2016年8月13日、覚野良子さん撮影

アクシバ 1枚

ほか 10枚

府立少年自然の家 2016年8月18日撮影

ウシタキシソウ 1枚

アケボノシュスラン 1枚

ミズタマソウ 1枚

ミヤマウコギ 2枚

ミヤマウズラ 2枚

ほか 23枚

和泉葛城山 2016年8月21日撮影



ミヤマウズラ

和泉葛城山 2016年8月21日、覚野良子さん撮影

ケリ 3枚

ほか 1枚

貝塚市清見 2016年8月29日撮影

ミヤマタニソバ 1枚

ミヤマナミキ 1枚

アオゲラ 1枚

ネキトンボ 1枚

ミヤマアカネ 2枚

ほか 7枚

和泉葛城山 2016年9月1日撮影



ミヤマナミキ

和泉葛城山 2016年9月1日、覚野良子さん撮影

セトウチホトトギス 1枚

ほか2枚

和泉葛城山 2016年9月8日撮影



セトウチホトトギス

和泉葛城山 2016年9月8日、覚野良子さん撮影

アケボノシュスラン 1枚

オオハナワラビ 1枚

ヤマミズ 2枚

ほか4枚

和泉葛城山 2016年9月10日撮影

レモンエゴマ 1枚

アケボノシュスラン 1枚

ほか4枚

和泉葛城山 2016年9月15日撮影

イガホオズキ 1枚

ツルニンジン 1枚

ほか7枚

和泉葛城山 2016年9月17日撮影



イガホオズキ

和泉葛城山 2016年9月17日、覚野良子さん撮影

ミヤコミズ 2枚

セトウチホトトギス 1枚

アケボノシュスラン 3枚

ほか2枚

和泉葛城山 2016年9月23日撮影



アケボノシュスラン

和泉葛城山 2016年9月23日、覚野良子さん撮影

覚野良子さんからは、以上の写真のほか32枚の動植物の写真（貝塚市内、2016年7月～9月撮影）を寄贈していただきました。

◆西出龍生さんより

アユの群れ 4枚

貝塚市堤 2016年7月18日撮影



アユの群れ

近木川 堤 2016 年 7 月 18 日、西出龍生さん撮影

◆五藤武史さんより

コフキトンボ 1 枚

堺市浜寺南町 2016 年 8 月 3 日撮影

◆藤村雅志さんより

コゲンカンドリ 5 枚

近木川河口 2016 年 9 月 15 日撮影



コゲンカンドリ

近木川河口 2016 年 9 月 15 日、藤村雅志さん撮影

＜目撃情報＞

◆食野俊男さんより

アマサギ 1 羽

貝塚市麻生中 2016 年 7 月 22 日

◆西敏明さんより

オオムラサキ 成虫 1 点

貝塚市馬場 2016 年 7 月 25 日

 スタッフ日誌

7月29日、西小学校5年生と近木川上流の休場橋で現地学習を行いました。カジカガエルの幼生、タゴガエル、サワガニ、ニッポンヨコエビなどが採れ、仕掛けにはカワムツとタカハヤが多数入り、何とか形になりました。7月15日の事前学習会で紹介した生きものの中では、ムカシトンボとヘビトンボの幼虫が採れなかったのが残念でした。(山・岩)

8月5日、貝塚市の各教育機関が一緒になって、貝塚科学の祭典が開催されました。当館は午前に地曳網体験を二色の浜で行い、主な漁獲はコショウダイの幼魚など6種の魚や、ジャノメガザミなど4種のカニでした。午後は館内でキーホルダー作りとペーパークラフトの工作を行いました。

(スタッフ一同)

8月6日、リオオリンピックが開会しました。折しも、近木川では中流の堤と河口の汽水ワンドで八大竜王灯ろうの夕べが行われ、聖火ならぬキャンドルの灯が夕闇に川面を照らしました。(高・山)

8月31日、夏期特別展「千石荘の自然Ⅲ」が閉幕しました。6月16日から2月半に亘って、千石荘樹木調査の結果や、これまでに得られた動植物の各グループに関する情報を展示しました。昆虫ぬり絵コーナーでは、たくさんの作品を描いてボードに貼ってもらいました。次の特別展からは自然遊学館オリジナルのぬり絵を準備しますので、楽しみにして下さい。(岩)

9月9日、貝塚市地蔵堂在住の西村恒一氏から寄贈されたチョウ類標本約3,870点のうちから、主に貝塚市産のアゲハチョウ科とタテハチョウ科の171点を選び、浜手地区公民館において出張展示しました（9月26日まで）。（岩）

9月10日、「かいづか家族の日」事業として、教育研究センター主催のカニ釣り親子体験が行われました。翌日、9月11日は中央公民館主催の「オトナの近木川探検」として、独身の男女を対象としたカニ釣りが行われました。近木川のカニたちも、連日餌のタクアンが降ってくる状況を不思議に感じたことでしょう。（高・山）

9月15日、和泉葛城山の昆虫調査の日に、登山道Aコース終点付近のブナの立ち枯れ木が倒れているのを見つけました。高さは4m以上あったはずですが、それが斜面を滑り落ちて、崖の途中で止まっていました。降りるには危険な所です。8月23日の鳥調査の時には立っていたので、その間に倒れたのでしょう。ツキヨタケや、それに群がるキイロセマルケシキスイやオオキバハネカクシを観察できていたのに、これからはそうもいかなくなります。（岩）

自然遊学館の建物にも採用されていることから
アンモナイトをモチーフにしたデザインに
したいと思いました
館には植物の展示もあるので
緑も入れてみました



8月に学芸員実習を当館で行った成蹊大学芸術学部の松本苑子さんが作成してくれた自然遊学館のロゴマーク作品です。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2016 秋号 (No. 81)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2016. 11. 30

この小冊子は市内印刷で作成しています。